

# 因幡志

三十九

			九	和
	一	五	二	書
	七	三	函	門
一	二	冊	架	類

庫文閣内			
七	五	九	和
八	二	一	書
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 9152
冊數	12 ( 7 )
函號	175 109





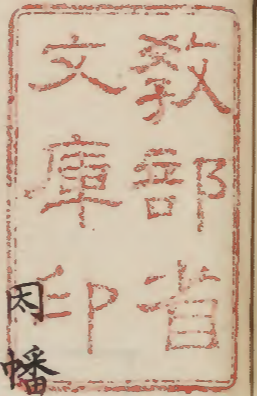
因幡志

筆記之部 五  
四五

二十七 九

三十





因幡志卷之二十九

内一〇二三七號



筆記之部 四

因府侍醫安陪 惟親 恭庵編

福田清左衛門

七通

土肥兵太夫

七通

南条勘兵衛

十三通

荒木新右衛門

五通







於和列字智那  
 小嶋村部百石門  
 臥下郡法壽寺村  
 之內百石部石部合  
 冬百石部石之事



今之扶助年全字  
以知也

九月廿一日  
大漢封

九月廿一日  
大漢封

福尔清惠

於和列亦下郡  
法者封四百  
五指石事  
加增之扶助年  
全之知也



茂長石

右清野

い月廿方七感五

福永清野

お和列 平群郡  
子中村内 敷石  
紀列 名草郡 肥後  
志多布庄内 百石  
合巻 百石 半







然つて其へて。あすこは此  
所。そ目らんて付て。此をいふ  
情事入る。此に佐列。中めと相  
付。此にあり。自然。そ  
ハ此佐列。此をいふ。此  
此を相。ため。お慰。此に佐列  
了。縁理を。此相。人。此を相。  
事。ま。つ。ま。相。ま。つ。ま。ま。  
かん。い。ま。し。人。の。ま。ら。り。の。ハ。  
何。も。何。の。ハ。め。中。印。此。が。あ。る。ま。

付。ま。ま。の。印。此。度。ハ。一。た。ん。め。  
ま。ま。の。あ。ま。の。の。ハ。此。ハ。あ。る。  
あ。ま。の。の。ハ。た。ら。相。此。の。ハ。  
何。色。も。い。ま。つ。ま。い。ま。つ。ま。つ。  
そ。ま。ま。付。中。中。ま。ま。中。中。中。  
そ。ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。  
ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。  
ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。  
ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。  
ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。  
ま。ま。の。ま。ま。つ。ま。つ。ま。つ。ま。つ。











Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), enclosed in a rectangular border. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive hand.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), located on the left page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, matching the style on the opposite page.







茶法列 とう 常 法 成  
り じ 子 持 翻 之 持 子  
了 法 也 方 子 乃 也  
む 方 子 持

子 也 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃 乃 乃 乃 乃 乃



うりす

福永屋

軍法

一 陣中絶えぬは軍先を以て  
一 陣中絶えぬは軍先を以て  
一 陣中絶えぬは軍先を以て

中々絶えぬは軍先を以て  
中々絶えぬは軍先を以て  
中々絶えぬは軍先を以て

一 陣中絶えぬは軍先を以て  
一 陣中絶えぬは軍先を以て  
一 陣中絶えぬは軍先を以て







三條保内中

村分字不知  
不可有  
おと  
者也  
仍  
如  
件

元龜元年

十月廿七日  
長親

河田孫右衛門



河田孫右

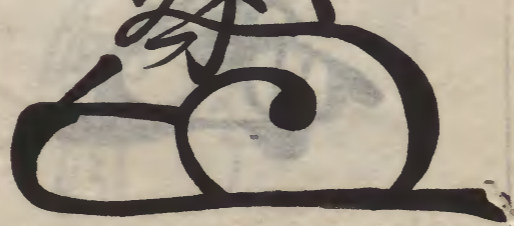
計交候宿業中右邊候

志以事當了相人候中

河田孫右

元龜三年申壬

拾月十九日謹啓



河田孫右

河田孫右



後地之系物也  
部地判取出入  
上入系しは後合  
子つるお透り也  
は

古月世日孫系  
古月世日孫系  
古月世日孫系

古肥孫十身系  
何為約之第何  
渡里出山正知り不  
了有相違但信後  
亦了為女前也何  
女件



天正六年

八月十六日

禪忠

右瀆門坊

亡父右瀆門坊  
禪忠之事

天正九年  
二月

禪忠

女伴

天正九年

二月

禪忠

禪忠

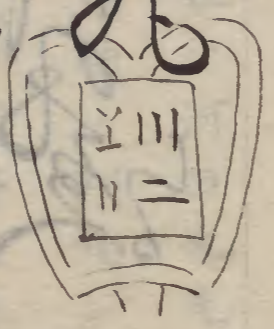


為清堪忍之友保  
 舟及内堀深波墨  
 知行不有相違但  
 法候未成者女考年  
 来之有之也仍  
 女伴

秀心丸

六月二日

猿子世所



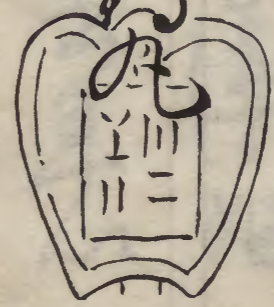
為合力古志新  
 之内依回海  
 并繩海分全知



行不可不有相  
遠近名色仍如件

天正十年

分月吉宿岩露丸



河田猿千代の受  
与

右七通土肥兵太夫所持也土肥本姓ハ河田也先祖孫  
五郎上杉家ノ家人タリシ時知行所領ノ判物ナリ二  
番目ノ右衛門佐免許ノ消息ハ謙信ノ滌筆ニ無紛  
ノ歟



小奉書折紙

於越易存申

以飛入之內五皇

お流月録別成

と枝助平全

下順知多々



大正十三年  
三月二十一日

五

湯清表右漢文

知行寸目錄

一 卷之百七拾石

此方國府中寸分角

知行村

一 百卷拾石

日

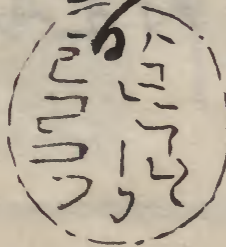
神田村内

合不百石

右と友お段と扶御託合可  
知行也

秀吉公御朱印

文禄四年八月

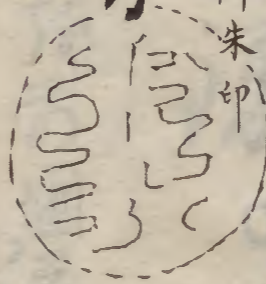


湯清表右漢文



蠟燭五十挺  
 到來之結帳  
 爲合以物由來  
 新之良のしは  
 卯日廿四  
 湯清結太筆の

秀吉公御朱印



為支配する元  
 行之桑以帳  
 面全可と知り  
 去也ゆめ件  
 純侍書



孝文長子  
い月止り、室者



湯清右馬

為扶助  
不令免の記

目錄別紙在  
今平之領知  
此件

孝文長子  
之月其者忠氏



湯清勘平







あはれめしきうらな  
山りふりかゆい  
まじしれれれれれれ  
五月列るや  
うらうら  
まじしれれれれれれ  
うらうら  
まじしれれれれれれ

たうり、まら、  
まら、  
まら、

湯清字志

知の事目録

一 百五拾九石之山  
徳富代  
東直好村



一石四拾石五分七厘 少部 上野村西  
より合参百石者

寛永五年

十月十日

**印**

湯淺建方

九折紙

猪苗代山崎  
内との知行  
参百石事目  
録列候事  
別令持御  
旨可取知事也

寛永五年

十月十八日

**印**







二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...  
二人... 折紙...

二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...  
二日... 折紙...

南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...  
南条... 折紙...

折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...  
折紙... 折紙...

折紙



破る者なる者中一り  
以て清列りり  
めり  
津  
潜  
其  
伏  
客  
何  
有

は  
清  
よ  
多  
山  
し  
つ  
自  
大























くたのつりしきまゝ  
けきもさかかゝるゝ  
すまゝのたまひいひや  
まゝにまゝにまゝに

回かかんくつてぬまゝ

あゝ海へまゝの  
くつてぬまゝに  
くんまゝにまゝに  
いゝまゝにまゝに  
まゝにまゝに

いゝまゝにまゝに  
あゝのぬまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに  
まゝにまゝに



右十三通ハ南茶勘兵衛所持也初三通ハ秀吉公御判  
物ナリ其次紀伊守重吉

成中御一々人  
言々平御一々中  
夕一平御一々中  
平  
長  
子能

知行寸目録

- 一 三百七拾七石二斗
  - 一 百三拾七斗五升
  - 一 三拾七石五斗
  - 一 合五百拾七石五斗二升
  - 一 部拾七石二斗
  - 一 拾部石五斗
- 和州吉野郡 一の尻内  
日や  
日越智  
紀州那智郡 新那智村  
日国分村



一 九石寺斗

日向和国村

一 九拾石石古斗半

日向若部  
日向栲村

一 二拾石石古斗半

日向永山村

一 一拾石石古斗半

日向是家村

一 一拾石石古斗半

日向是家村

一 一拾石石古斗半

日向是家村

右に扶御年及令知也

久保内奉九月廿日

秀吉公  
御朱印

是迄新古斗



































































山崎惣兵衛  
右  
三  
信

右四通ノ文章知行方目錄凡荒木新右衛門所持也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

因幡志卷之三十一

筆記之部 五

因府侍醫安陪 惟親 恭庵編

渡邊源七

十三通

氣多郡相屋大明神

品物

同郡西青屋村神主宇多川大和

二通

和田

一通

巨濃郡湯村

二通



Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) within a rectangular border. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the cursive script. The text appears to be a personal note or a short piece of poetry.

因部志卷之三十一

卷之三十一

因部志卷之三十一

Faint, illegible handwritten text in the upper right section of the page, possibly bleed-through from the reverse side or very light ink.



河内送成羊  
沙名塘沙心  
至乃滋多嘉  
仔斗一神  
後河内多入河

了姑下  
片信

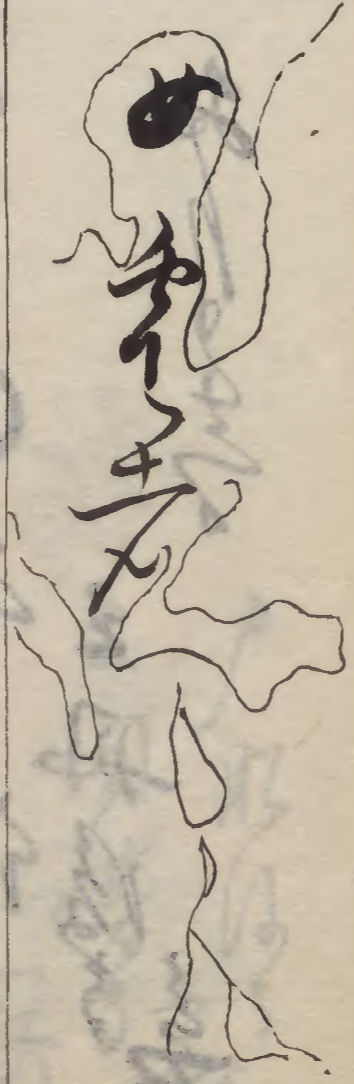
了姑下  
了姑下  
了姑下



来 行 时 矣 九  
初

竹 律 焉

一 万 有 五



也 味 出 之 乃 好 十  
来 之 何 以 之 乃 大 也  
之 初 也 乃 矣



多治り方概誠心  
 名もこし海も心  
 自中庭之共志  
 之者甘く生御先  
 つねらるるおと方  
 の中のみそく律  
 之丹後寺  
 ありき

戸取所  
 之園情  
 寺  
 五  
 心やう  
 了

飛札奉り  
 先交りあり







少頃之能伯列為  
片集圖子以結師  
外中中亦結合  
其以水子志志志  
易中反伯者國  
久々々々以好知  
能亦々々以好知

以今也与了結上者  
亦々々々子亦亦  
也々々々々子亦亦  
結也了了亦亦亦

一月十日

古大略

道



如平之状

心

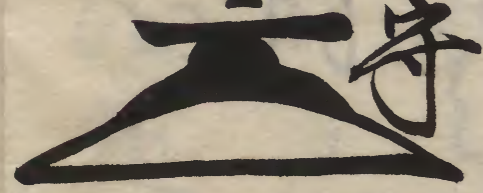
如平之状  
如平之状  
如平之状  
如平之状

如平之状  
如平之状  
如平之状  
如平之状  
如平之状

小大和守

心

心





松野翁千紙休

一ノ名入ノ紙  
三ノ元ハ有ニ紙  
了ノ一ハ紙  
一ノ紙  
一ノ紙

中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙  
中ノ紙



新の志剛の事  
う舞世古白法結合  
能く皆と多心同書  
度方多又作修系  
しの日付徳澤人  
来上相修極極  
桑二三為事後法

結合、一有とぬ  
片の志剛の事  
とあり將亦おけ地  
家系始作有法  
了ん多事と多一及  
乃何法極極  
此片意とあり



く用ひて今も此中  
源は、子母なる果  
中逢ふと此中

山崎子母書

霜降十日

山崎

松野方子  
結子

下

今も此中  
其は、子母なる果  
所ありて此中  
結子



何れも目若くは  
あつたやうに  
さうして中が  
少くもあつた  
と

生かす

杉神者

くわん

あつた







是るるいさせ中  
かき出作坊百  
少の目了りて  
筒の七物目と  
之ハハハハハ  
中々たる物  
はてはたまり  
と身今及周到

おいて百月  
了りて  
去々部人  
七物目  
又何者  
たのし  
西物  
之  
唐



之候ハおれ日中候  
石火夫ハ候ハおれ  
候ハおれ  
叶草ハおれ  
如事ノきハおれ  
かハおれ  
おれ

拙筆

之月

杉

下

然人

心  
之  
字  
字  
字  
字  
字  
字



























ふりしりぬふりしりぬ  
りぬぬぬぬぬぬぬ  
りぬぬぬぬぬぬ

舟の便り月集一筆校  
破りしりしりしりしり  
りしりしりしりしりしり  
以半舟も中道り舟  
情り舟便り舟便り  
舟便り舟便り舟便り

舟便り二月廿七日城あり  
之刻舟の舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
南都舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟



とや海女あやう人  
を海もそのあやうの  
あやうあやうあやう  
中があやうあやうあ  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう

又よあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう  
あやうあやうあやう

あやう



評本ありき書物

くわんり

みけした年法流  
以指南より新なる識

毎夜はさく

一筆子題して法めけ

招野 白く年と中仁批名  
ちめりうのうりねさるた

姪ひこころり法流志

石火矢海ありき書物

高のめり書物い中り

中中 樹標をよと

中中 中中 中中

中中 中中 中中

中中 中中 中中







了りては海とてらゆ神也  
りんちん子孫の  
作るるに  
りては神名の水なり  
りてはるる  
りてはるる  
りてはるる  
りてはるる  
りてはるる

律

村立八段

之

律

律

律



*[Faint, illegible handwriting, possibly bleed-through from the reverse side]*

*[Faint, illegible handwriting, possibly bleed-through from the reverse side]*

了年し

一  
家  
え  
清  
書  
信  
之  
紙  
各  
が  
あ  
ら  
わ  
る  
知  
ら  
ぬ  
と  
あ  
ら  
わ  
る  
事  
も  
あ  
ら  
ず  
何  
れ  
も  
な  
し







一 其方故は故くぬれず  
成之其の生ずる  
一 我未ゆれぬとぞ  
一 下之海城、多し  
一 其割りし  
一 其の法事、法  
一 其の事、事

其方故は故くぬれず  
成之其の生ずる  
一 我未ゆれぬとぞ  
一 下之海城、多し  
一 其割りし  
一 其の法事、法  
一 其の事、事

其方故は故くぬれず

其方故は故くぬれず

其方故は故くぬれず

其方故は故くぬれず



海島子之采風

海島子之采風  
海島子之采風  
海島子之采風  
海島子之采風  
海島子之采風

因幡國

# 從五位下相屋神

三代實錄載之

貞享四丁卯歲五月五日邑養郡鳥取住人小泉友賢書之

裏之圖

竪壹尺八寸八步  
橫四寸六步  
厚廿貳步



勅額之圖

正一位

相屋大明神

裏

正德三癸巳年孟夏十有一日  
進寄進當村見上源三郎

因幡國氣多郡勝部下郷青屋村

正一位相屋大明神社記

夫神之妙焉不可測先乎天地生乎天地後乎

天地幹乎天地厥用也亘於萬歲貫於人物者

歛所謂得一不二專一非一一而無形虛而有

靈竒哉斯言矣曰若因刈氣多郡青屋村者

相屋大明神鎮座地也何年于此迂座年代遠

而不知其曆數舊社之地者在丸山之交雖為

古樹蒼々近海濱而颶風卷沙而埋没社林越

社司藤原正重伺御闈消吉日筮期萬治二己



亥秋從九山奉迂鎮和多山告舊事紀曰六代  
耦生天神青檀根尊亦云面足尊妹吾屋檀根  
尊亦云惶根尊蓋聞取此兩神之佳名得青屋  
邑之名者歟其天地十二代者魚俱卿說云二  
代即十二代十二代即一代也云云思夫大神  
者地神之本体地神者天神之神化也天神地  
神互合神德令守護人代賜也畢竟神代不遠  
在天地者靈神在人者為心天地萬物森羅万  
象無不神代之所變矣人皇五十七代  
陽成帝元慶元年授賜從五位下三代實錄載  
之且累代刺史納田若于為神領是自非崇奉

神德何及於此乎正德四歲次甲午六月廿六  
日辱授賜正一位神階神威日增如川之方  
至芦崎氏令頃乘次賢篋重清相偕戮力為之  
願主矣然為其境仰望東南鷺山翠縹緲而聳  
雲上俯臨谿澗巖清水鬐沸而流藻間并予村  
縈囿于允鎧畠重疊于乾者故老曰昔大閤征  
代隣國時萃鎧武者於此攸職呼此名松林鬱  
々不老枝逐年而抽竹叢青々貞節操隨日以  
蕃長尾迎朝暉野上送夕陽氣象萬千不可具  
狀矣一日芦崎兼茂來告余曰當社顛末請為  
記焉冀使後人有所嚮往且有所法矣余感其



志之至誠不得固辭祇寫其所聞所見為之記

未社

稻荷

荒神七社

國屋八幡

八幡

稻荷

聖神

若宮

惠義須

青屋村井手村鎮座

往古城主國屋氏所

尊祭古城之鎮守

井手村鎮守

同村鎮座

同村鎮座

同村鎮座

青屋村鎮座

神主

宇多川大和守藤原正光

此社記一卷古老之口實也神主藤原正光求  
證明於予故喜旧事傳于世加與書託

享保己亥孟夏吉曜日

神道管領長下部朝臣忍敏 列

右氣多郡相屋大明神ノ社ニ納ノアル品物ナリ初ノ

筈ノ蓋ハ所謂三代實錄元慶元年二年十二月廿九日因



林道

幡國正六位上相屋神授從五位下トアル其片倫旨ヲ  
入テ下サレタル管ノ蓋ナリ老杉ニテ作ル甚ク盛品  
ナリ管ハ紛失シテナシ當時白木ナリシヲ貞享年中  
小泉友筆書シタルナリ元慶元年ヨリ今寛政元年迄  
九百十三年綿邈タル星霜此蓋ノ残リ有テ殊勝ト謂  
ッヘシ次ノ額ハ正徳年中又神階ヲ昇リ五ノ時勅筆  
也ト云リ後ノ一通ハ其片ノ神職宇多川大和當社来  
歴ヲ記録シテ吉田兼敬卿奥書ヲ申請タルナリ

林道  
宇多川大和當社来  
歴ヲ記録シテ吉田兼敬卿奥書ヲ申請タルナリ

之片方  
月  
乃  
外  
海  
新  
孝  
光

裏ノ端ニ又ハふらんじトアリ

大坂  
桐  
海  
子



乃之柳... 外... 每...  
 中... 天... 記...  
 吾... 柳... 記...

九月九日  
 了五

右二枚氣多郡西青屋村神主宇多川大和所持也

敬白起清文之事

一... 敬白起清文之事...  
 一... 敬白起清文之事...  
 一... 敬白起清文之事...  
 一... 敬白起清文之事...  
 一... 敬白起清文之事...











しんせしけいしんはくせしん  
のちしんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしんしん

まゝ  
しんしん

寛永九年  
十月廿七日

しんしん  
しんしん  
しんしん  
しんしん



湯村  
しんしん  
しんしん



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a list or record. The characters are in cursive (sōsho) style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the list or record from the right side. The characters are in cursive (sōsho) style.



